

情報公開文書

2021 年 2 月 17 日 version 1.0

1. 研究の名称

『ハンズフリーコミュニケーションツールを用いた指示の口頭指示に対する有効性の検証試験』

2. 研究の目的と方法

消化管外科領域で一般的となっている腹腔鏡下手術では、両手で器具を操作するために術者間のコミュニケーションは会話に大きく依存します。しかし、会話のみでは意図が正確に伝わらないことがあり、指示の誤認は手術時間の延長などにつながります。私たちは、腹腔鏡下手術中のコミュニケーションを改善させることを目的として、顔のみで操作可能なコミュニケーション支援システムを企業と共同で開発しました。医学生や若手医師を対象に、手術画像上の特定の部位等を口頭指示のみに対して、システム利用を使うことでより伝わりやすくなるかどうか検証する試験を行います。

3. 研究の対象となる患者さん

画像利用の対象となるのは、当教室で術式や病名は問わず、2018 年 10 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までに腹腔鏡下手術またはロボット支援下腹腔鏡下手術を行った患者さんです。合計 5 症例程度の利用であり、該当期間に手術を受けた全ての方の画像を利用するわけではありません。

該当期間に当教室で手術を行った方で、手術画像の利用を希望されない方は、連絡を頂ければ除外します。

4.研究期間

倫理審査承認日から 2021 年 12 月 31 日までの予定です。

5.利用する情報と個人情報の取り扱い

利用する情報は手術画像です。画像には個人を特定する情報は含まれておらず、すべてのデータは匿名化されており、患者さんの個人情報を公開することはありません。

結果発表の際にはプライバシーが十分に尊重され、個人が特定できる情報が外部に公表されることは一切ありません。なお、この研究は京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、病院長の許可を得ています。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することは可能です。

6.研究資金と利益相反について

本研究は経済産業省の平成 30 年度戦略的基盤技術高度化支援事業に採択された「内視鏡外科医師の早期養成、及び手術時間短縮のため、眼電位・筋電位等の生体信による空間画像処理技術を開発し、透過型ヘッドマウントディスプレイを用いたハンズフリーコミュニケーション支援システムの製品化」に関連する研究です。

研究に関する費用は京都大学医学部附属病院消化管外科の運営費から支出されており、他施設の研究者等には企業に所属するものも含まれますが、本研究は、特定の企

業からの資金提供は受けておらず、利益の衝突は発生しません。利益相反については、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規程に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査しています。

7.研究組織

研究機関：京都大学医学部附属病院消化管外科

研究責任者：小濱和貴

試料・情報管理担当者：住井敦彦

8.問い合わせ先

京都大学医学部附属病院 消化管外科医局（TEL）075-751-3111

研究責任者：小濱和貴

研究担当医師：錦織達人、住井敦彦

京都大学医学部附属病院 相談支援センター（TEL）075-751-4748

(E-mail)ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp